

県政
報告

ひでゆき通信
INSIGHT

慧眼

Vol.11
autumn
2023

【けいがん】「物事の本質を鋭く見抜く力」「将来を見通す能力」



ごあいさつ

令和5年4月の統一地方選挙におきまして、お陰様で浜北区より2期目の静岡県政に送り出させていただきました。心より感謝申し上げますとともに、皆様方からいただいた御信任に対する責任の重さをかみしめております。現在の静岡県の抱える諸課題やコロナ禍明けの社会活動・経済活動の立て直し、さらには急増する豪雨災害・水害被害への対策など、今日の前にある喫緊の課題にしっかりと向き合い、浜北区の皆様のご代弁者として働いてまいります。



さて、この5月には国の新型コロナの感染法上の位置づけが2類から5類へと引き下げられました。主な変更のポイントは、発熱外来ではなく、季節性インフルエンザと同じように一般の医療機関で受診できるようになったということです。日常生活においては、行動制限が緩和されたり様々な規制が解除されたことで、飲食店や行楽地などはどこも大変な賑わいとなっております。また、円安による影響も相まって海外から大勢の旅行者が押し寄せており、インバウンド消費も大幅に増えている状況です。

一方で電気、ガソリン等エネルギー価格の高騰や生活必需品をはじめとした物価高に歯止めがかからず、私たちの暮らしは依然として苦しい状況が続いています。原因は国際情勢を含めた様々な要因が絡み合っており簡単に解決できそうにありませんが、国や政府は国民生活を守る努力を怠ってはなりません。エネルギーミックスや円安是正などについては今できる政策を総動員して、この国難ともいえる状況を改善していかなくてはならないと考えます。

3年半にも及ぶ長く苦しかったコロナ禍での生活もようやく終わろうとしています。お祭りや地域の行事・イベントなども復活し、伝統文化や人々のふれあい・きずなが日常の中に帰ってまいりました。疫病や自然災害、事件・事故などのない、穏やかで平和な日々が続いていきますよう、心より祈念しております。



常任委員会 「産業委員会」

産業委員会は、経済産業部、企業局、労働委員会の所管に属する事項を担当します。

静岡県内の農林水産業や商工業を盛んにしたり、働く人々を支援する仕事に関する事などについて調査・審査します。

今年度は
委員長を務めて
います。

県議会議員として県政に飛び込んで1期4年が過ぎました。政治や行政の経験を持たない私にとって初めて踏み込む未知の分野ばかりで戸惑うこともたくさんありましたが、議員の仕事はそれ以上に新鮮で公共の福祉の増進にやりがいを感じています。この1期4年のあいだに、昨年6月定例会の代表質問を含め5回登壇の機会をいただきました県議会本会議では「人づくり」や「結婚支援」、「農業振興」、「観光振興」、「中小企業支援」、「エネルギー政策」、さらには「地域振興」など県政の幅広い分野について当局に取組や考え方を質すとともに、意見や提言を行ってまいりました。これらの内容については、これまで10回発行した県政レポート「慧眼」にも掲載しております。

2期目の慧眼においても県政の現状や課題をできるだけわかりやすく報告するとともに、私自身の県政への向き合い方や考えをお伝えしていきたいと考えています。今回の慧眼Vol.11では2月定例会一般質問で取り上げた項目の中から2つのテーマを選び、今後の展望や考えを含めコラムとして掲載させていただきたいと思います。



① リニア中央新幹線整備による 県西部地域(新浜名区)への効果について

大井川の水問題や南アルプスの自然環境の保全を理由に県がJR東海に対して静岡工区の着工を認めていない**リニア中央新幹線の動向**は全国から注目されています。私はリニアについて昨年6月定例会の代表質問で水問題を取り上げるとともに、本年2月定例会では長野県飯田市に設置が予定されている**新駅を契機とした静岡県西部地域の振興**を取り上げました。

愛知県北設楽郡東栄町から浜松市北区・天竜区、長野県飯田市にかけてのいわゆる**三遠南信地域**は古くから塩の道や秋葉街道を介して人々の往来や交易が盛んに行われ栄えてきました。しかし近年急速に**高齢化と過疎化**が進んでおり現在では人口減少により限界集落となっている地区も多くなっています。この地域において現在**三遠南信自動車道の建設**がダイナミックに進められています。この道路は新東名高速道路の浜松いなさジャンクションと中央自動車道の飯田インターチェンジを約100キロメートルで結ぶ**高規格幹線道路**で産業の振興や地域医療の向上、災害に強い道路網の整備など大きな効果が期待されています。これが全線完成すると水窪町と飯田市が約70キロメートル、1時間程度で結ばれることとなります。現在水窪にお住まいの方が新幹線を利用される場合、浜松駅もしくは豊橋駅まで自家用車等で2時間程度を要していますが、将来的には**リニア長野県駅が最寄り駅**となり得ると考えられます。

JR東海によれば、リニア中央新幹線は東京と名古屋

を最速40分、東京と大阪を最速67分で結ぶことを想定しており、実現すれば三大都市圏の移動時間が大幅に短縮されます。本県においてもリニア長野県駅と浜松駅、掛川駅とのアクセス網が充実すれば人や物の交流が促進され、まさに**内陸におけるフロンティアが実現**できると考えられます。またリニア中央新幹線を使えばこの地域からの大都市への通勤通学も可能となることでしょう。このことは、逆に訪れる方にとっても飛躍的に利便性が向上することになり、海外からの観光客を含め多くの

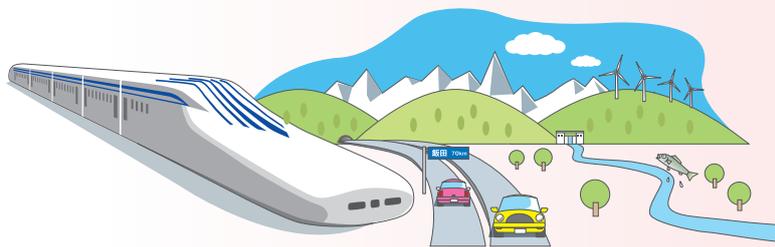
人々が来訪し**交流人口の増加と地域活性化**が期待されることとあります。

令和6年1月1日、浜松市の行政区が7区から3区に変わり、浜北区は北区の一部とともに**浜名区**となります。大井川の水問題や南アルプスの環境保全はもちろん重要であります。本県西部地域、とりわけ浜名区や天竜区の将来を展望した場合、リニア中央新幹線の整備は三遠南信自動車道の整備と合わせ複

合的に考えることで、**経済対策・防災対策・過疎対策**など様々な観点から好材料となります。県当局には、こうしたメリットについてもしっかりと検証し、水問題同様に発信するよう働きかけていきたいと思ひます。



天竜区佐久間町にて



2 これからの静岡県のエネルギー政策について

慧眼Vol.5、Vol.6では「**ゼロカーボン(脱炭素)社会の実現に向けて**」をテーマにコラムを掲載いたしました。再生可能エネルギーの歴史や経過、本県の取組についてはVol.6の方に掲載いたしましたので、ご覧いただけない方で希望される方にはお送りいたします。近年SDGsの視点から再生可能エネルギーの利活用が進んでおりますが、ロシアのウクライナ侵攻に端を発する国際的なエネルギー資源の価格高騰からもより一層再生可能エネルギーへの期待が高まっているといえます。

国は、昨年9月に岸田総理を議長として**GX—グリーン・トランスフォーメーション実行会議**を立ち上げました。カーボンニュートラルの実現とエネルギー安全保障に向けクリーンエネルギー中心の産業構造、社会構造への変換をするため官民協調により今後10年間で150兆円を超える投資実現を目標とするロードマップが示され、今年2月10日に閣議決定されました。

私はこうした情勢から、本県が**政策的に再生可能エネルギーを積極的に推進**することはカーボンニュートラルの実現とエネルギー安全保障に加え、投資や政策資源を呼び込むことにつながり、**地域活性化を実現する大きなチャンス**であると考えます。

本年2月定例会の一般質問で同趣旨の質問を行いました。県の取組としては小水力や温泉エネルギーを利用した発電設備等の導入に係る県独自の補助制度や、新たな研究や取組に対する技術開発への支援を行っているとの答弁でありました。また、今後の方向性については、これまでの調査結果を再評価するとともに、本県の強みである**高い技術力や産業の集積、豊かな森林や水といった地域資源**を最大限活用し脱炭素技術の開発や社会実装を進めていくということでありました。

そうした答弁を踏まえ、私は資源エネルギー庁のホームページから全国の地方公共団体等の発電事業に関する取組を調べてみました。本年7月1日現在、一定の規模を有し電力会社への送電契約を結ぶ北海道や岡山県

など21の企業局と神戸市など19の地方自治体が電気事業法に基づく**発電事業者の届出**を行っていることがわかりました。静岡県内では静岡市の清掃工場における発電事業が唯一で、県と県企業局は発電事業者一覧に掲載されておりません。発電事業者の届出を行っている他県等の発電設備の内容を見ていきますと、昭和30年代以前に建設された水力発電が多くを占めますが、近年整備された設備では岡山県企業局や群馬県企業局のメガソーラー、山梨県企業局の中小水力などがあり、今後

については多くの事業者が**再生可能エネルギーによる発電事業を重要視**しています。

再生可能エネルギーの普及のためには、県内市町・企業等への補助制度や技術開発に対する支援は重要であると理解しています。一方、県の取組として特に企業局には現在の水道事業や工業団地整備事業に加え、本県の豊かな森林や水、地熱・温泉といった地域資源を有効に活用した発

電事業について取組の検討を進めるよう働きかけていきたいと思えます。**高騰する電気代への対策**としてだけでなく**エネルギーミックス**の視点からも、あらゆる可能性に県として積極的にチャレンジする姿勢が問われていると考えます。



温泉付随ガス熱電併給設備(川根温泉/島田市内)



小水力発電(白糸滝養魚場/富士宮市内)

Topics

静岡県庁本館と静岡県議会



県庁本館

静岡県議会が入る静岡県庁本館は、1937年（昭和12年）竣工の頂部に和風の瓦屋根をのせた「帝冠様式」のレトロな建物です。鉄筋コンクリート造4階一部5階建、建築面積は約4,000㎡で、2001年（平成13年）に国の有形登録文化財に指定されました。建設に当たり県は当初、当時の日本を代表する設計士で静岡市役所を設計した中村與資平氏（現浜松市東区天王町出身）に基本設計を依頼しようとしたが、設計委託料が高いとの理由により内務省の理解が得られず、中村氏への依頼を断念しました。そこで懸賞付きの公募（コン

ペ）により設計案を集めることとし、選考の結果、1位となった神奈川県の泰井武氏の案を取り入れながら、中村設計事務所 中村與資平氏に実施設計を依頼しました。

静岡県議会は県庁本館の3階から4階部分にあり、本会議場を囲むように正副議長室や委員会室、議員控室、図書室等が配置されています。本会議場は大理石の柱や緞帳風のカーテン、演台を中心に劇場のように扇形で段差がつけられた議員席など、国会を参考にした重厚なつくりとなっています。議場を目をこらしてよく観察すると、天井に接する壁上部には、三保松原やみかん、のこぎり屋根の工場など竣工当時の静岡県を代表する風景や特産品、産業などをデザインしたレリーフが飾られていることがわかります。これらの装飾は4階の傍聴席から最もよく見ることができます。

また、傍聴席入り口には傍聴者休憩室があり、歴代の議長の肖像画や写真が飾られています。浜北選出で第62代議長を務められた故河合多三先生もこの中にいらっしゃいます。（第111代議長の渥美泰一先生は、直近10年の議長ということで議長室に飾られています）

歴史と伝統の詰まった県庁本館と静岡県議会です。是非、本会議の傍聴にお越しください。



本館階段



レリーフ

9月定例会で一般質問をさせていただきます
令和5年9月28日(木) 13:00 登壇予定

静岡県議会議員

市川秀之

プロフィール

昭和41年11月20日生まれ
家族構成：妻・2男1女
趣味：ゴルフ・カメラ・文化芸術鑑賞
静岡県立浜名高校 卒業
日本大学経済学部 卒業
市川産業(株)入社 現 代表取締役
学校法人北浜学園 北浜幼稚園 理事
平成18年度 (社) 浜北青年会議所 理事長
平成19年度 浜松市伎倍小学校 PTA会長
平成21～24年度 浜松市PTA連絡協議会 副会長
令和元年 静岡県議会議員当選(1期目)
令和元年度 文教警察委員会 委員
令和2年度 文化観光委員会 委員
令和3年度 建設委員会 副委員長
議会運営委員会 委員
令和4年度 総務委員会 副委員長
移住・定住等促進特別委員会 委員
令和5年 静岡県議会議員当選(2期目)
令和5年度 産業委員会 委員長



おかげさまで、この県政報告「ひでゆき通信 INSIGHT～慧眼～」も Vol.11 となりました。
バックナンバー (Vol.1～Vol.10) をご希望の方は 市川秀之事務所までご連絡いただければお届けします。

ご意見・ご感想を
お聞かせ下さい。

[市川秀之事務所]
〒434-0013 静岡県浜松市浜北区永島577
TEL053-443-8700 FAX053-443-8703

[静岡県議会 自民改革会議 控室]
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6
TEL054-221-2566 FAX054-221-3379

<http://www.ichi-hide.com/index.php>

[E-mail] hide-ichikawa@mth.biglobe.ne.jp

